

## 川崎病（急性熱性皮膚粘膜リンパ節症候群）

### <どんな症状>

急に 38～40℃の発熱とともに首のリンパ節がはれて痛みます。熱が2～3日つづいたころから白目が充血し、唇が真っ赤になって、舌が赤くはれていちご状舌になります。からだや手のひらと足の裏が真っ赤になり手や足の甲がパンパンにはれることもあります。熱は普通1週間以上、長いときは2週間以上続きます。

### <どんな病気>

主に生後6か月から4歳以下の乳幼児がかかり、原因は、まだわかっていません。全身の血管に炎症がおこり、かかった子どもの5～10%は心臓に後遺症が残ります。今は超音波（エコー検査）でチェックできるので、専門医のもとで定期的に検査を受け、後遺症のチェックをしていくことが大切です。

何らかのウイルスか細菌が発病に関係しているという説が強いのですが、人から人への直接感染することはありません。全身の血管に炎症がおきることから体の免疫機構に何か関係があるのではないかともいわれています。

